



知っちよる? しものせき J'sページ

水産大学校編

このページは、ジュニアのページ(J'sページ)として市内5大学と連携して作成しています。小・中学生、高校生に向けて、毎月、大学のユニークな取り組みや役立つ情報を分かりやすく紹介するコーナーです。記事は、月ごとに各大学が持ち回りで担当しています。

今月の担当は水産大学校です。

知ろう！学ぼう！身近な生き物

近年の環境への関心の高まりによって、市内でも地域や小学校において環境に関する行事が増えています。

アクラスでは、平成19年度より「環境リーダー」として、自然観察を通して身近な環境への理解を深めてもらうための市主催のイベントにボランティアで参加しています。「親と子の水辺教室」「親子自然観察教室」など、以前は市の環境部の職員がやっていたことをアクラ

みんな、知っちよる？

水産大学校には、アクラス(水の生き物研究会というサークル)があります。魚やエビやカニなどの水にすんでいる生き物をこよなく愛する学生たちが集まっています。

今回は、アクラスの学生たちの市のイベントなどにおける活躍について紹介します。

環境リーダー

最近ではサマーキッズエコフェスタに参加し、学生が自分たちで企画した内容で、豊かな下関の自然環境を守っていけるように、啓発活動をしています。

吉見小学校のビオトープ池

水産大学校のある吉見には、吉見小学校があります。平成25年度に、校舎の耐震化工事が行われたときに小学校の中庭にあったコンクリート製の池が、取り壊されま

すが中心となって進行しています。調査した場所で採集された生き物の名前や生態などを解説し、最後にそれらの生き物の種類から河川の水質の判定などを行ったり、生態系への理解を深めてもらったりしています。

最近では、池の中に植えたハスの花もたくさん咲くようになり、その下で泳ぐ小魚を狙ってサギなどの水鳥も飛んで来るようになりました。一生懸命池をのぞき込んで、夢中になっている子どもたちもいるようです。

生き物から学ぶ

アクラスは、さまざまなイベントを通して、小学生に生き物を探集する楽しさや生き物に触れる楽しさ、命の大切さを伝えていきます。子どもたちの純粋な心や教えることの難しさを体験し、共に学ぶことは、学生たちの成長にもつながっています。



「親と子の水辺教室」の風景



吉見小学校のビオトープ池



採取した生き物を観察



吉見のホテルまつりで、発光のしくみを解説